

令和8年度長井市心のまちづくり活動推進補助金

申請書記入の手引き

申請書記入の際のポイントや注意点を、記入例とともにわかりやすく説明します。

<まずはじめに>

- ・ 申請書を提出する前にぜひ事務局へご相談ください。また、申請書の書き方などでわからないことがあればお気軽に下記へお問い合わせください。

長井市地域づくり推進課 TEL 0238-82-8005（課直通）

- ・ 申請書は手書きでもパソコン使用（MSの Word 利用）でも結構です。手書きの場合は見やすく丁寧に記入ください。また、手書きで欄におさまらなければ、お申し出ください。事務局で欄、枠を拡張した用紙をお渡しします。パソコン使用の場合、枠が狭ければ適宜欄を拡張いただいで結構です。
- ・ 記入例の内容はすべて架空のものです。

別記様式第1号 の書き方 (※記入例は2ページをご覧ください)

■「申請者」について

申請者のお名前と印鑑は、活動が採択された場合、実績報告書や請求書などすべてに統一して記入、押印いただくことになります。

■「1 補助金申請額」について

当補助金は**上限50万円**です。千円未満は切り捨ててください。

■「3 活動を行う団体の概要」について

□「団体の名称・設立年月日」について

団体の設立年月日を定款・規約などから記入してください。NPO法人は認証を受けた日を記入してください。活動歴は参考までにお聞きするもので、交付決定には直接関係しません。

□「代表者名及び住所」について

会長、代表など役職名がある場合は、氏名の前に記入してください。
事務所がある場合は事務所の住所を記入してください。

□「申請に係る事務担当者」について

書類の内容確認など連絡を差し上げる場合がありますので、日中に連絡が取れ、申請内容がわかる方の連絡先を記入してください。携帯電話の番号でも結構です。

□「設立の趣旨」について

団体を設立したきっかけや目的について具体的に記入してください。

□「団体の活動内容」について

団体の普段の活動や過去の実績について具体的に記入してください。

□「団体の構成員数」について

応募の条件は5人以上の団体（グループ）で、代表者及び半数以上が市内にお住まいの方、通勤・通学する方で構成する団体（グループ）です。参考までに会員名簿も提出願います。

記入例

別記様式第1号

令和 ○年 ○月 ○○日

長井市長 宛て

申請者 団体名 さーくる・ぶりゅっけ
 代表者名 代表 長井 あやめ

長井市心のまちづくり活動推進補助

長井市心のまちづくり活動を実施したいので、長井市心のま
 綱 第6条の規定により下記のとおり申請します。

会長、代表など役職名があ
 る場合は、氏名の前に記入
 してください。

付要

- 1 補助金申請額 193,000 円 (千円未満は切り捨て)
- 2 活動の名称 楽しく学ぼう長井方言講座

3 活動を行う団体の概要

団体の名称 設立年月日	^{フリガナ} 団体名 <u>さーくる・ぶりゅっけ</u> 設立年月日 平成 <u>26年1月1</u> 日 (活動歴 <u>約5</u> 年)
代表者名及び住所	^{フリガナ} 代表者名 <u>代表 ^{ナガイ} 長井 あやめ</u>
	団体の所在地 〒 <u>000-0000</u> <u>長井市000</u>
申請に係る 事務担当者	^{フリガナ} 氏名 <u>副代表 ^{ミスノ} 水野 つつじ</u>
	通知等送付先 〒 <u>000-0000</u> <u>長井市000</u>
	電話番号 <u>00-0000</u> FAX <u>00-0000</u> Email <u>00000.jp</u>
設立の趣旨 (団体設立の経緯や 目的)	<u>申請者が5年前に結婚を機に長井に移り住んだ際、夫以外に知り合いもおらず右も左もわからず孤独感を感じたことから、同じように長井に移り住んだもの同士が生活するうえで困っていることや悩みなどを共有する場を作ろうと思ったことから設立。ちなみにサークル名はドイツ語で「橋」という意味で、移住者と地元の人をつなぎたいと思ったことに由来。</u>
団体の活動内容 (実績)	<u>・集まる会(情報交換会)：2か月に一回定期的集まり、お菓子を持ち寄りながらざっくばらんに悩みを話す会を開いている。 ・つながるしくみづくり：行政と連携して田舎暮らしに興味を持っている人と移住者のお世話をしたいと思っている世話焼きお母さん(=里親)をつなぐ仕組みが作れないか検討中</u>
団体の構成員数	<u>8</u> 人 (うち、長井市内に在住、在勤、在学等の数 <u>6</u> 人)

フリガナを忘れず
 に記入願います。

別記様式第2号 の書き方 (※記入例は4～6ページをご覧ください)

■「2 活動の分野」について

申請する活動の該当する分野に○を付けてください。1つでなくとも構いません。

■「3 活動の目的」について

①について：活動を企画する原動力になった地域の課題（困ったこと）について記入してください。

②について：活動することで何を達成したいか記入してください。

■「4 活動の概要」について

①について：活動の内容について全体像がわかるように具体的に記入してください。他団体の協力を得ながら実施する場合には協力団体の名前も記入してください。

②について：過去に団体で同様の活動を行ったことがある場合のみに記入してください。すでに実施している活動については、発展・充実させて実施する場合のみ対象となります。過去の活動と比較し、充実、発展させている点についてご記入ください。

③について：広報の方法を教えてください。なお、活動が採択された場合には、心のまちづくり基金について市民の皆さんに知ってもらうために、活動のお知らせと併せて積極的な広報をお願いします。

■「5 スケジュール」について

活動のスケジュールを記入してください。活動の準備段階についても記入してください。活動の完了日は、団体の任意ですが、対象となる活動は、補助金交付決定後（5月中旬予定）から令和9年3月31日までに実施する活動です。

■「6 期待される成果」について

市民からの寄付金をもとにした補助金ですので、公益性が重要となります。この活動を実施することでどのような効果が市民にもたらされるか記入してください。またその他にアピールしたい点があれば記入してください。

■「7 翌年度以降の活動の展開」について

来年度以降この活動を継続する予定があれば、どのように発展させるか記入してください。

■「8 その他」について

①について：これまでに当補助金の交付を受けたことがある場合にご記入ください。過去に交付を受けたことがある活動については、発展性が認められることが交付の条件となります。

②について：審査の結果、交付金額が希望額から減額されることがあります。減額された場合でも活動を実施することができるか、またいくらまでの減額であれば実施が可能か、金額をご記入ください。

③について：当補助金を使って、申請活動に必要な備品を購入したい場合のみご記入下さい。

④について：他の補助金も申請する予定があるか記入してください。当市以外の補助金であれば、他の補助金等とも併用可能です。ただし、併用しようとする他の補助金が当補助金と併用できるかどうかは団体の責任で確認してください。

活動計画書

(補助を受けようとする活動の内容)

記入例

団体名 さーくる・ぶりゅっけ

1 活動の名称	楽しく学ぼう長井方言講座
2 活動の分野 ・該当するものに○をつけてください。	<p>(1) 地域の活性化を図る活動</p> <p>(2) 地域の安全・安心・福祉の向上を図る活動</p> <p>(3) 子どもの健全育成を図る活動</p> <p>(4) 生涯学習を推進する活動</p> <p>(5) 地域固有文化の育成を図る活動</p>
3 活動の目的 【必要性】 【公益性】 【企画の独自性】 【補助効果】	<p>① この活動を提案するのは、地域にどのような課題があると考えたからですか。</p> <p>外から来た人間にとっては方言はまるで外国語のように感じられる。せっかく縁あって長井に移り住んできたにもかかわらず、言葉がわからないがために一日中家に引きこもってしまう人もいる。長井の人口を増やすためにも移住者を受け入れる側の体制がもっとあっていいのではないかと思う。</p> <p>② 活動することで何を目指しますか。</p> <p>方言がわからない人が言葉の壁を乗り越え一日でも早く地域に溶け込めスムーズな日常生活を送れるようになることを目指す。また地元の人との交流を図り、地元の人にも移住者に対してもっと関心を持ってもらうことを目指す。</p>
4 活動の概要 (課題の解決方法) 【自発性と熱意】 【必要性】 【公益性】 【企画の独自性】 【実現可能性】	<p>① 課題解決のための具体的な活動内容(場所・回数・実施体制・参加者の範囲・人数等)をお書きください。活動の発展性や工夫・新しいアイデアなどもお書きください。</p> <p><長井方言講座の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：長井弁子先生(長井の方言について研究されている) ・会場：●●センター会議室 ・回数：6月から9月までの月2回、計8回 ・対象者：・移住者(中級程度の日本語を理解できる外国人を含む)、 ・移住を考えている方、 ・あらためて故郷の言葉の豊かさを学びたい地元の方 等 30名程度を想定 ・参加費：一人1000円 ・内容：初級レベルの長井の方言の習得を目指す。また、最終回は実践編として、地元の人に郷土料理を教わりながら、移住者と地元の人が交流する「料理交流会」を行う。 <p><方言ガイドブックの作成></p> <p>講座終了後、来年度に向けて長井弁子先生に指導いただきながら移住者のための方言ガイドブックを作成したい。また、移住者だけでなく、外国人の方にも使ってもらえるよう、日本語を教える団体とも協力したいと考えている。</p>

審査の際の視点です。
これらの視点で総合的に審査しますが、すべてを完璧に満たさなければならぬというわけではありません。

<p>4 活動の概要 (課題の解決方法)</p> <p>【自発性と熱意】 【必要性】 【公益性】 【企画の独自性】 【実現可能性】</p>	<p>② (過去に団体で同様の活動を行ったことがある場合のみご記入ください。) 今回申請する活動と過去の活動を比べて、より充実、発展させている点についてお書きください。</p> <p>これまでは定期的に集まって普段の悩み事を話すなど、情報交換を行っていたが、その中で多く出される悩み事の一つに「方言が分からず周りの人とうまくコミュニケーションが取れない」というものがあった。そのため、方言講座を開くことにより、移住者が少しでも周りの人とコミュニケーションが取ることができ、早く地域に溶け込めるようになってもらえればと考えている。</p> <p>③ 活動の広報の方法についてお書きください。</p> <p>チラシを作成して、市役所や市内の様々なところに設置し、広く受講者を募集したい。また市の広報ながいや移住交流ポータルサイト「田舎暮らし ごんざい」、Facebookでも広報に協力いただきたいと考えている。</p>	
<p>5 スケジュール 【実現可能性】</p>	<p>時期 (日付)</p> <p>5月下旬～ 6月0日 6月0日 7月0日 7月0日 8月0日 8月0日 9月0日 9月0日 10月～3月上旬</p>	<p>実施項目 (やること)</p> <p>チラシ等で広報 第1回「当講座の趣旨説明、長井の方言とは」 第2回「“んだ”の呼吸 鼻音をマスターしよう!の巻」 第3回「“べ”“ぺ”をマスターしよう!の巻」 第4回「“こさ、そさ、あそこさ、どさ”をマスターしよう!の巻」 第5回「日常よく使う単語をマスターしよう!の巻 ① ～挨拶編～」 第6回「日常よく使う単語をマスターしよう!の巻 ② ～食事・買い物編～」 第7回「これであなたも長井人!イントネーションをマスターしよう!の巻」 第8回「実践編:地元の人に郷土料理を教わりながら、学んだことを使って話してみよう!の巻」 方言ガイドブック作成</p> <p>完了 (予定) R9年3月上旬</p>
<p>6 期待される成果 【公益性】 【補助効果】</p> <p>活動終了後に提出する実績報告書の中でも検証していただきます。</p>	<p>この活動を実施することで、誰に、どのような成果(効果)が期待できるとお考えですか。また、アピールしたい点についてお書きください。</p> <p>長井に移り住んできた人が楽しんで地元の言葉を学び、一日でも早く地域に溶け込めスムーズな日常生活を送れるようになることを目指す。また地元の人との交流を図ることで、地元の人にも私たちのように移り住んできた人に関心を持ってもらえるようになると思う。</p> <p>アピールしたい点は、地元の方々に協力いただきながら、一緒に取り組む点と、楽しんで参加いただける企画内容を考えている点である。</p>	

別記様式第3号 の書き方 (※記入例は8ページをご覧ください)

- 活動の収支予算を記入してください。
- 収入と支出の合計は必ず一致させてください。
- 自分たちの団体からこの活動へ支出できるお金がある場合、または補助対象とならない経費の分は自己資金に記入してください。

(以下募集要項から抜粋)

補助の対象経費は、補助対象となる活動に要する経費とします。ただし、以下のような本来団
体で支払うべき経費については補助対象外とします。

- ×団体の構成員に対する人件費、謝礼
- ×活動目的に付随しない飲食代等
- ×団体の維持・運営に要する経常的な経費
- ×申請した活動以外の活動に要する経費

【補助対象となる経費の例】

項目	補助対象となる経費の例	補助対象とならない経費の例
謝礼	講演、勉強会などの外部講師への謝礼等	団体の構成員への謝礼、手当て等
交通費	外部講師などに支払う交通費等	団体の構成員に対する交通費
使用料及び 賃貸料金	事業実施のための会場使用料、機材、車 両等の賃貸料	
印刷製本費	・チラシ、パンフレット、広報ポスター 等の印刷費 ・会議資料・活動資料等の印刷費	定期刊行している団体の会報等の印刷 製本費
通信運搬費	活動実施にあたり必要な切手、はがき、 宅配便代等	電話代やインターネットの使用料金
食糧費	活動実施にあたり必要不可欠な食材費	団体の構成員に対する飲食代
消耗品費	活動実施にあたり必要不可欠な 資材、 文房具、用紙代、材料代等	団体の運営に関する事務費などの経常 的な経費
保険料	活動実施にあたり必要不可欠な保険料 ※参加者に対する保険料は参加費として徴収す るなど参加者負担とすることが望ましい。	
委託料	専門的な知識、技術等を要する業務につ いての委託料	計画、実行など事業の全てを委託する もの
備品購入費	活動実施にあたり必要不可欠な備品代	団体の運営に関する備品代など、活動 に直接係らないもの
工事請負費	活動実施にあたり直接必要な工事請負費	
原材料費	工事、加工用材料	
その他	上記項目に該当しない経費で、活動実施 に必要不可欠と認められる経費	※上記項目には該当しない経費でも交付の 対象としてふさわしくないと審査で判断さ れることがあります。

活動収支予算（決算）書

記入例

1 収入の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	比較増減	内訳
長井市心のまちづくり 活動推進補助金	193,000	,000	,000	※千円未満は切り捨て
自己資金	5,500			会予算から
活動に係る収入	30,000			参加料1,000×30人
他に申請予定の補助金	20,000			(補助金の名称) (財)全国方言協会 「方言活用補助金」
活動総収入合計	248,500			

収入と支出の合計を一致させてください。

2 支出の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	比較増減	内訳
【講座費用】				
・講師謝礼	44,000			5,500円×8回
・講師交通費	8,000			1,000円×8回
・会場使用料	8,000			●●センター会議室、調理室(1,000円×8回)
・印刷製本費	10,000			チラシ印刷費 (10円×200枚) 資料印刷費 (10円×3枚×30人×8回)
・消耗品費	1,000			紙代他
・備品購入費	10,000			ホワイトボード (※見積書添付)
(最終回：料理交流会)				
・材料費	40,000			
・消耗品費	3,000			紙皿、紙コップ他
【ガイドブック制作】				
・講師謝礼	16,500			ガイドブック作成への助言 (5,500円×3回)
・講師交通費	3,000			1,000円×3回
・印刷製本費	105,000			方言ガイドブック製本費 (350円×300冊)
活動総支出合計	248,500			

※こちらの様式は予算書と決算書を兼ねています。

申請の際には「費目」「予算額」「内訳」の欄のみを記入してください。

※工事を要する場合や備品を購入する場合は必ず見積書等を添付してください。